



<リハビリテーション科>

概要

平成 8 年に発足した理学診療科は、平成 9 年リハビリテーション科に改名され、平成 12 年 6 月に八木了医師がリハビリテーション科専任として赴任し現在に至っている。

診療はリハビリテーションセンターと院内各病棟のベッドサイドで行っている。リハ科としてのベッドはなく、入院患者の診療はすべて副科として行っている。リハビリテーションの処方主科の担当医にお願いしている。診療内容としては骨関節障害と脳血管神経障害が最も多いが、呼吸器リハ、術後あるいは安静臥床後の廃用症候群、小児リハ、心大血管疾患リハ、摂食機能障害リハなどもあり、対象疾患は多岐にわたるため、院内の多くの科の協力を得て、安全に診療が行えるよう心掛けている。

平成 22 年 5 月、電子カルテシステムが導入され、リハ診療も電子カルテ上で行われるようになった。画像データ、検査データ、病棟での患者さんの入院生活の状態などが容易に見られるようになり、診療の効率が上がり、より安全なリハビリテーションが行えるようになった。

当院では病院の性格上、急性期リハが圧倒的に多い。急性期における集中的なリハとしては、1 人の患者に対して PT・OT・ST を併せて最高で 1 日 9 単位(時間にして 180 分)が認められている。また最近では土曜、日曜にもリハ訓練を行う FIT プログラムを採用する施設も少しずつ増加している。当院の現状ではスタッフの数からみて、今すぐにはこのような濃厚なリハはできないが、土曜、日曜の入院患者のリハを少しずつ始めているところである。経済的な面からも、患者サービスの向上の面からも、リハスタッフの更なる増員が望まれるところである。

(八木 了)

(1) 外来担当表

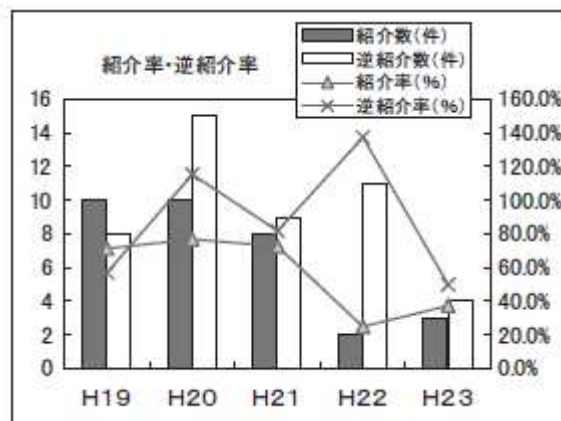
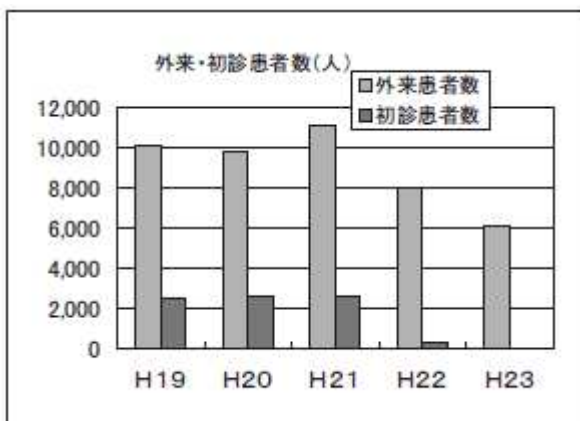
第1診察室

	月	火	水	木	金
午前	大石	八木	八木	大石	八木
午後	八木	八木 (筋電図)	八木 (義肢・装具)	八木	八木

第2診察室(心臓リハ、その他のリハ)

月	火	水	木	金
大野(心臓)	大野(心臓)	大野(心臓) 吉原(乳腺) 幸脇(小児)	富田(心臓)	成瀬(心臓)

(2) 2011 年度、リハビリテーション実施件数



業績

- 論文

論文

1. 肩の夜間痛用サポーターの臨床応用と効果
神谷琴美、太田 進、神谷 猛、森嶋直人、八木 了、太田秀樹
総合リハビリテーション

